

コース 18 ^{あいづこまがたけ} 会津駒ヶ岳・^{ちゅうもんだけ} 中門岳・^{たいしゃくさん} 帝釈山

リーダー CL T/Y
 実施日 平成28年6月29日(水) 30日(木)
 天候 晴れ時々曇り
 参加者 9人 (男性 4名 女性 5名)
 グレード C上~D
 コースポイント



ポイント	到着時間	出発時間	備考
29日 会津駒ヶ岳 2,132.4m 中門岳 2,060m			
秋葉区役所前		5:20	高速新津ICから新鶴ICで一般道路に出る
滝沢登山口	9:10	9:30	身支度を整え、準備体操
水場入口	11:00	11:10	清水には行かず
駒の小屋	12:40	13:00	小屋前のベンチで昼食
会津駒ヶ岳	13:20	13:30	集合写真、眺望はありません
中門岳	14:20	14:35	残雪も無く、池塘と花の山
駒の小屋	15:00	15:10	行動食でお腹満たし下山
登山口	18:10	18:20	わたすげ荘に向かう
30日 帝釈山 2,059.6m			
わたすげ荘		7:30	宿の前が帝釈山へ道
馬坂峠登山口	8:10	8:20	広い駐車場、立派なトイレあり
帝釈山	9:18	10:00	雲海と360°の素晴らしい眺望堪能
馬坂峠登山口	10:55	11:10	登山用具の整理し風呂に向う
燧の湯	11:00	14:00	桧枝岐最高の温泉でゆっくりと昼飯
からむしの里	15:10	15:40	道の駅で土産品調達
坂下IC高速		16:30	R400~R252 JR只見線脇道で帰路
秋葉区役所前	17:50	18:00	ジャンボタクシー企画無事終了しました。

山行等概要(幹事のコメント)

花の登山道、会津駒ヶ岳から中門岳のハクサンコザクラの開花に合わせて計画、見事的中いたしました、新津ICから高速道路に乗っても天候曇り空でしたが、新鶴ICスマートから一般道に下りると時折日のさす好天の兆し、二日目に予定の会津駒ヶ岳、中門岳を今日に変更すると告げる(参加者から拍手)コース時間の再検討、宿に到着は7時ごろの了解をとりました、(宿のおかみさんからゆっくりしての声)登山口の階段を登るころ青空に変わりました。眺望のいい駒の小屋前ベンチで遅めの昼飯を取り、木道の登山道をゆっくり登り会津駒ヶ岳の山頂に立ちました、中門岳までの登山道は傾斜のある木道と階段、雨に濡れた古い木道は危険です、お目当てのハクサンコザクラ、わたくし達のパーティを手招きするように咲き乱れておりました。花の道は途切れることなく中門岳まで続き、この季節にしか会えない残雪と雪消えの枯れ草模様にチングルマ、ワタスゲ、等



の花々が加わり絵葉書の中に居るようでした。

いつまでも見飽きない気持ち押し殺し、下山し桧枝岐最高の燧の湯で汗を流してわたすげ荘の夕食の膳は川魚、山菜、焼き肉、てんぷら、など食べきれない料理です、他のお客様がいないので時間制限なしの夕食に満足度 100 でした。

二日目、帝釈山も早朝の雨も上がり馬坂峠（標高 1300m）登山口は雲海の上でした、良く整備された登山道の脇にゴゼンタチバナ、カニバコウモリが絶え間なくつづき山頂付近は白花シャクナゲが満花で迎えてくれました、雲海に浮かぶ山頂の景色、尾瀬の山々、昨日登った会津駒ヶ岳、日光の栃木方面、まぶしい太陽光線に輝いたおりました、山頂 2060m雲の上の小島ゆっくりティタイムを取り、昼飯は燧の湯で3時間楽しむことにしました、一日目は会津駒ヶ岳、中門岳までキツイコースでした、夕食時に明日の帝



釈山は今回の山行の付録を宣言し時間制限なしとしました、二日目の下山時燧の湯の板の間でクルマ輪の昼飯兼反省会、長い3時間アッコウまでした、帰路道の駅らしむ織の里、お土産調達、山岳道路閉鎖で田代湿原は割愛となりました、梅雨の季節天候にも恵まれ、宿のわたすげ荘のネアカのおかみさん、フラワー観光の運転手宿も飯、風呂一緒でした、2月のスキー怪我で不安一杯の山行リーダーでした、宿の夫婦、運転手、いい参加メンバーに心から感謝します。



「会津駒ヶ岳・帝釈山登山に参加して」

(1678) A/W

梅雨の間に登山の計画が多い。ちょうど春から夏にかけての花が見ごろになるので雨が心配だが、晴れることを期待している。今回も駒ヶ岳のハクサンコザクラや帝釈山のオサバグサなど花の魅力いっばいに誘われて参加することにした。

梅雨前線は九州に居座り連日のように注意報が出ている。新潟近辺も梅雨空が続いている。雨の場合は観光に切り替えるという案内だったが、山の魅力が大きいので、お天道様に祈るばかり。

時間通り集合して、ジャンボタクシーの中で、リーダーから「今日は曇りだが、明日は雨の予想なので、変更して、今日は長丁場の会津駒ヶ岳にしたい。日は長いし、民宿には6時半ごろのチキインをお願いして。明日は雨でも1時間で登れる予定の帝釈山にしたい。」と相談され、皆も賛成し、民宿にもOKがとれた。

9:30に滝沢登山口から出発した。

山道はブナやナラの灌木の中、笹藪を切り払って1mほどの道幅に、広げてあった。粘土質の地と切り払って間もないと見える、笹の枝で滑りやすくなっている所を黙々と歩いて、高度を上げていった。期待通り、雨は落ちず、時々、弱い日も差した。



11;10 水場に着き大休止。そこから、しばらく歩いていくと、突然、ドサッという何か落ちたような大きな音。「熊だ。猿だ。」熊という結論になり、皆で大声を出したり、クマよけの鈴を出したり。熊の住処におじゃまるのだから、ちょっとの間ごめんなさい。

花はないが、ツバメオモトが多い。マイツルソウやユキザサ、アカモノ、ゴゼンタチバナなど細かい花が地面を覆うようになりだんだんと高山の様子。

2000mを超えたら天井の楽園だ。駒の大池の付近ではハクサンコザクラが赤紫色の花弁と黄色のおしべとの対比で美しい造形だ。イワイチョウ、ワタスゲ、チングルマの高山植物が咲き乱れていた。

12;40 駒の小屋で昼食。

その後、池塘があちこちに浮かぶ平原の中をカーペットを敷いたような山道が山頂まで延びているようだ。雪渓も残り、雪が解けたばかり、コバイケイソウの芽吹きが可愛く、緑の花弁の蕾のよう。ハクサンコザクラが群落をつくっていて見どころ満載。

14時、2133mの山頂。残念ながら雲が立ち込め眺望もよくない。大きな木の看板と「会津駒ヶ岳山頂」の字には趣がある。

山頂から平原の中へ吸い込まれるように山道が中門岳へと続いており、広いすり鉢状の底のところに池があり、14:50に到着、2050m中門岳の頂上との事(?)。池塘に山並みが映り、流れる霧も幻想的だ。

帰路には駒ヶ岳は迂回して、戻ってきた。樹林の中を漂う霧は緑がって別世界だ。17:20 水場。随時、休憩を取りながら雨の心配もなく、無事、18:20 下山できた。

民宿わたすげ荘の方も遅くなった私たちを快く歓迎してくれ、夕食前に民宿前の燧の湯に入浴させてくれた。夕食が20:00になっても。料理も山菜を中心にたいそうなごちそうであった。

明日は雨だろうし、今日で十分登山を堪能できたので、明日は朝食を頂いてから、帝釈山に上ることにした。



2日目；予想に反して曇り。うれしい裏切り。
予定通り、7：00にわたすげ荘をでる。

7：40 馬坂峠の登山口に到着。雨が降ったらしく、濡れているし木道は滑り台状態になっている。

登山口から、オサバグサが見え始めた。シダのような葉（機織りの箆にみたてたとか）と長い花柄に細かい白い花がついている、2から3個残っているが、もう1週間前が盛りだったらしい。驚くほど美しいのはギンリョウソウだ。雨に洗われ、輝くしろい姿は、その辺にあるのとは違うと思った。

ミツバオオレン、カニコウモリ、ゴゼンタチバナそれぞれ群落をつくっていた。頂上付近でのアズマシャクヤクも咲いていた。両脇、花の道である。

9：30頃 2070m頂上。下に雲海が広がり、高い山が頂をだしている。虫が多いが、ちょうどいい気温で風もない。予想を裏切ったの晴れ間。こうなると、欲が出て予定通りの田代山湿原に行きたいと思うが、残念ながら新潟に戻る時間を逆算すると、行けないことが分かった。行くとすれば、もう2時間早く登山開始をせねばならなかった。しかし、朝6時ごろは雨か。何しろ、雨上がりの登山道だったから。ゆっくりと、頂上の景色を楽しみながら、テータムを取り、樹木の出すマイナスイオンを深呼吸しながら下山をした。

11：15 無事登山口に到着。

12：00に燧の湯（温泉かけ流し、木造の高い天井、露天風呂から見る溪流など楽しみどころいっぱい）民宿わたすげ荘のおかげで安く入れたし、ロビーで、車座での宴会もさせてもらい、桧枝岐村の方々に感謝。

14：00に帰路のドライブに出発。18：00に新潟へと戻った。

本当に、リーダーの冒険心のある判断や皆さんのチームワークの良さで臨機応変、雨に当たらず、無事、長丁場の登山ができたことに、ありがとうございました。



帝釈山の整備された登山道

